

第2回協議会だより 《北方部》



—令和5年10月24日（火）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

【実践発表】 西田保育所

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



西田保育所では、『子どもの想い』を第一に考える保育所」を保育理念に掲げ、「丈夫な体の子ども」「思いやりのある子ども」「感性豊かな子ども」を目標に、子ども一人一人に寄り添った保育を進めています。

その保育の一環として、今回の発表にありました「さくら太鼓」の活動を設け、一体となって取り組んでいます。「さくら太鼓」は、西田保育所の特色として、20年以上の伝統ある活動となっています。この活動を「10の姿」の視点から意味づけ、小さい頃から、ものを大切に友だちと譲り合って一緒に楽しむという道徳性や協同性が育まれる環境がつくられています。

発表を目標とした練習の過程においては、目標に向かって友達と教え合いながら頑張ろうとする自立心や協同性、言葉等を大切に、日々の活動を進めています。その中で保育士は、子ども一人一人の自主性を尊重し、活動の中で生じた興味や探求心に寄り添いながら支援を進めています。

保育士が日々の保育の中で、子ども一人一人を受け止め、「10の姿」を意識しながら関わり支援を充実させることが、一人一人の成長につながっている、と強く感じられた内容でした。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 西田保育所の発表について

- ・豊かな自然の中で子どもたちがのびのびと過ごしています。大人から与えられるのではなく、子どもたちが自ら進んで活動しているのがよいと思いました。
- ・太鼓まつりを年2回行うことで、保育所の中にはない達成感を味わうことができていると思う。外で発表することが自信とやる気、満足感を育てている。太鼓の活動で年長児が「憧れの存在」になっているのがすばらしい。

☆ テーマ「遊びを通して育まれる資質・能力について」～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～について

- ・活動によっては10の姿は何個も入っているが、意図してその環境を整えるのはなかなか難しいですが、行事は取り入れやすく、また、振り返りもやりやすいと思います。
- ・気になる子は年々増加しており、保育所（園）・幼稚園と保護者が共通理解をして対応することが欠かせないと思いました。

《参加者からのアンケートから》

- ・幼稚園保育所でどのような学びが何を通して行われているのかを知ることができました。同時に小学校での様子を伝えることができました。こうしたことが幼保小のギャップをなくすことにつながると思います。今後もこのような機会に積極的に参加していきたいです。（小学校：参加者）
- ・太鼓の実践は子どもたちに達成感や自信を持たせるなどプラスのことがたくさんあると思いました。自分たちの保育の振り返りができ、よい勉強になりました。（保育所：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。